

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 宅老所ほほえみ		
所在地	下関市豊浦町涌田後地 31 - 1		
電話番号	083 - 772 - 0334	事業所番号	3577800489
法人名	特定非営利活動法人 宅老所 ほほえみ		

訪問調査日	平成 20 年 8 月 26 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 23 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	14 人	常勤 4 人 非常勤 10 人 (常勤換算 8.2 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 31,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
その他の費用	月額	19,000 円		
	内訳	光熱費 13,000円 日常生活費 6,000円		

(4) 利用者の概要 (8 月 26 日現在)

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	0	要介護 4	1
	要介護 2	3	要介護 5	2
	要介護 3	3	要支援 2	0
年齢	平均 80.6 歳	最低 70 歳	最高 86 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 済生会豊浦病院、ふじかわクリニック、重本病院、滝部病院 歯科
-------------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

山口県宅老所・グループホーム連絡会、地域連絡会議、他のグループホーム、居宅事業所、有料老人ホーム、病院等の交流、情報交換、相互訪問を通じて、サービスの質の向上に努めています。職員の良好なチームワークが、鍵をかけないケアや地域の人達が気軽に立ち寄りやすい雰囲気を作っています。家族の面会も多いです。14人の職員を確保して、日々のかかわりの中での希望等を申し送りノートに記録し、共有して、入浴の支援や好きなとき好きなだけ機能訓練するなどのペースと安全が保たれるよう支援しています。

(特徴的な取組等)

利用者の嗜好を把握し、献立を一緒に考えたり、その日の買い物や貰い物の野菜によって、利用者の好物をメニューに入れたり、朝食はパン食かご飯食かを選べたり、一人ひとりの健康状態に応じて、刻み食やミキサー食にするなどの工夫をしています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果を職員と共有し、ホームだよりの発行を実施しました。また、利用者の状態変化に応じたサービスについて話し合いを続けています。

(今回の自己評価の取組状況)

約1ヶ月間は毎日、出勤者でミーティングを重ね、管理者がまとめ記入しました。支援の振り返りやサービスの質の向上の取り組みについて話し合うようになりました。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催し、総合支所福祉課長、地域ケア支援係職員、自治会三役、家族、管理者、職員が参加して、評価結果や介護計画、活動状況などを報告、意見交換をしています。議事録は玄関の卓に置いて、面会に来た家族が閲覧できるよう配慮しています。

(家族との連携状況)

毎月利用者の健康(食欲、排泄、身体状態)、精神状態の記載用紙、ホームだよりの出納明細書、事務連絡などを送付すると共に、来訪時に生活状況の報告や写真、作品などを渡しています。また、手紙や電話でも連絡を取っています。本人に年賀状や暑中見舞いなどを書いて貰い、家族に出しています。

(地域との連携状況)

園児の来訪や近隣の方が気軽に立ち寄り、お茶を一緒に飲んだりしています。自治会に加入し、お大師さまや夏まつりにも参加しています。貼り絵やブローチ作りなどのボランティアも受け入れています。運営推進会議を通じて、災害など緊急時の協力体制についての話し合いを始めました。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 (1)</p>	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域との繋がりの大切さを実感し、職員と話し合い、「地域との繋がりを大切にし、地域に密着した開放的で日常的な交流関係を築くことに積極的に取り組む」という事業所独自の理念を作りあげている。</p>	
<p>2 (2)</p>	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者と職員は、玄関に掲示してある理念を出勤時に黙読し認識して、その人らしさや生き甲斐を感じる安心した日々を基本とする理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>3 (7)</p>	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>園児が来訪したり、近隣の方が立ち寄りたりしている。自治会に加入し、地域の行事に参加している。また、貼り絵、ブローチ作り等の手工芸のボランティアを毎月受け入れている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>4 (9)</p>	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員は自己評価及び外部評価の実施の意義を理解し、自己評価を全職員で行い、支援の振り返りやサービスの質の向上について話し合っている。</p>	
<p>5 (10)</p>	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>定期的開催し、総合支所福祉課長、地域ケア支援係職員、自治会三役、家族、職員が参加して、評価結果や行事等の報告、意見交換をしている。</p>	
<p>6 (11)</p>	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>高齢福祉課、地域包括支援センター、介護保険課等と連携している。また、ケアマネジャーの会議に参加して情報交換をするなどサービスの質の向上に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、利用者の健康、精神状態を記載した用紙、ホームだより、預り金の出納明細書、事務連絡などを送付している。家族の来訪時に写真や作品を渡すと共に、手紙や電話でも連絡している。本人に年賀状や暑中見舞い状を書いて貰い、家族に出している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書に苦情受付担当者、外部機関を明示し、苦情のあった際の記録様式を工夫、整備している。第三者委員の選任はなく、苦情処理手順は明確にされていない。	・第三者委員の選任 ・苦情処理手順の明確化
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	14名の職員を確保し、利用者の状態やペース、家族の状況に柔軟に対応できる勤務調整に努めている。緊急時に対応できる職員(準看護師)を確保すると共に、夜勤は看護師が行い、安心、安全に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職を最小限に抑える努力をしている。職員採用時の実習においても、利用者がこれまでと変わりなく支援を受けられるよう職員同士で連携し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は計画的に勤務の一環として提供している。研修を受けた職員は配布資料やレポートで復命し、「外部研修ファイル」に綴り全職員で共有している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や地域連絡会議に参加し、情報交換、ケース検討を通しての交流をしている。また、居宅事業所や有料老人ホーム、病院との交流や、3ヶ所のグループホームとの情報交換等で、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用者、家族の希望に応じて、日帰りや2時間程度の体験利用や宿泊体験もできる。また、家庭や病院、施設等を訪問して面接するなどの工夫をしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員が利用者から昔の歌を教わって一緒に歌ったり、漬物の漬け方を習ったり、「手伝います」「ありがとう」などの言葉かけをしてもらうなど、支援する側、支援される側という意識を持たず、共に支えあえる関係づくりを築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>生活歴など入居以前のことは本人や家族に聞いて把握し、思いや暮らし方が継続できるよう努めている。日々のかかわりの中で希望や意向を「申し送りノート」に記録し、共有して介護計画に反映している。また、嗜好調査をして献立に役立てている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者が自分らしく暮らせるように、本人や家族の思いや意見を反映し、課題となることを職員で話し合い、アイデアを活かした計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>毎月1回ケアカンファレンスを開催している。計画は3ヶ月に1回見直ししているが、利用者の変化に応じて、昼食時間を利用するなど、短時間での検討を繰り返して、現状に即した計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>かかりつけ医の受診に際しては、職員が送迎している。個別の買い物、外食などの外出の支援をしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関やかかりつけ医と連携をとりながら、適切な医療が受けられるよう支援すると共に、家族と情報を共有している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末に係る対応指針を定め、同意書の整備もされている。家族、医師、職員などを交えて段階的な話し合いを行っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	日常のケアにおいて、一人ひとりの利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。記録類は2階の事務室に保管し、写真類の取り扱いの同意を得ている。プライバシー確保に関する研修を行い、全職員が正しく認識している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩、入浴、起床、食事の時間など、一人ひとりのペースやその時の本人の気持ちを大切にしている。機能訓練をする人、本や新聞を読む人など、それぞれの利用者の希望に沿って支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	検食の職員が利用者と一緒に食べる。嗜好の把握をしており、その日の買い物によって、利用者の好物をメニューに入れたり、魚の嫌いな人には肉にしたり、朝食はパン食かご飯食かを選べるなど、柔軟な対応をしている。また、健康状態に応じて刻み食などの工夫をしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴可能(13:00~16:00)で、職員2名が対応して一人ひとりの状態に応じた支援をしている。希望すれば10:00頃からの入浴、夜間のシャワー浴、全身清拭、足浴、手浴等の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	朝食前にひとりの利用者に、声を出して新聞の朗読をして貰うのがホームの日課になっている。洗濯物たたみ、掃除、茶碗拭きなど、力を活かした場面作りや、散歩、買い物、歌、人形作り、貼り絵など、気晴らしや趣味などの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの楽しみごと、習慣に合わせて洗濯物干し、畑仕事、近所の寺社参りに行くなど日常的に戸外に出られるよう支援している。季節ごとの花見や果物狩りなどのドライブをしたり、2ヶ月に1回、近くの温泉に行っている。また、年1回利用者、家族、職員で梨狩りと温泉(入湯、食事、芝居見物)の日帰り旅行にも行っている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	日々のミーティングで話し合い、職員全員が身体拘束、スピーチロックなどを正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関の施錠はしておらず、外出傾向にある利用者は見守り、察知すると共に、気をそらす工夫もしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアル、緊急連絡網、ヒヤリはっと・事故報告書は整備しており、事故原因の今後の予防対策について検討、共有して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急の対応マニュアルは不十分である。定期的に全職員が看護師の指導のもとに訓練を行なっている。また、年2回消防署の指導で訓練を受けている。	・マニュアル内容の充実と共有
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回夜間想定訓練を含めた避難訓練を利用者と一緒に実施している。職員は消火器使用の訓練も受けている。水や食糧の備蓄、ロウソク、非常灯の準備もしている。運営推進会議で緊急時の協力体制の話し合いを始めた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとりの内服薬についてはファイリングし、全職員が薬剤の目的と副作用などを把握している。服薬の都度手渡しし確認して、服薬の有無を記録している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	マニュアルを作成して、毎食後歯磨きや舌苔の除去などを支援している。歯ブラシや義歯は定期的に消毒し、可能な限り本人が保管するように支援している。口腔ケアの重要性をミーティング時に話し合っている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分量を把握し、記録している。栄養バランスについては、栄養士の助言を6ヶ月に1回受けている。おかゆやミキサー食の対応など、その日の状態に応じての支援をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	予防や対応の取り決めがあり、予防に努めている。手指の洗浄、消毒、ペーパータオルの使用などを励行し、掃除の時に手すりなどの消毒も行っている。情報提供を受ける連携も整っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	車椅子でも楽に移動できる程、廊下は広く、その中央にはソファやウッドチェアが設置され、利用者の居場所となっている。天窓から自然の光が差し込み、生活音や話し声が和やかな時の流れを感じさせる。また、毎週金曜日にはホームシアターで、時代劇などの映画鑑賞を楽しみ、豊の間は昼寝や憩いの場となっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人ひとりの居室の入口には花の絵と名前が表示され、好きなのれんを掛けたり、テレビ、カセットラジオ、位牌、編み物道具等、できる限り入居以前の生活が維持できるよう家族と相談し、本人の思いを大切にしながら、使い慣れたものを持ち込んでいる。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	下関市豊浦町涌田後地 31 - 1
電話番号	0 8 3 - 7 7 2 - 0 3 3 4
開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日

【サービスの特徴】

--	--	--	--

【実施ユニットの概要】 (7 月 1 日現在)

ユニットの名称			
ユニットの定員	9 名		
ユニットの 利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
	要介護 1	1	要介護 4 1
	要介護 2	3	要介護 5 1
	要介護 3	3	要支援 2 0
年齢構成	平均 80.7 歳	最低 70 歳	最高 86 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	
評価確定日	平成 年 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		地域住民との交流をもっと多く持ちたい
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		都合により出席できなかった方のために、家族については会議内容の詳細を後日來訪時や「ホーム便り」等により報告しているが、その他の方々や周辺地域全体をカバーするため、「地域ホーム便り」の発行を検討中。
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行い、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善計画に基づき実行した事に対して職員全員で確認している。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	様々な取り組みを報告すると共に、家族と地域との交流の充実に向けて意見交換している。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明し、質問を受けている。また、随時質問を受け付け、十分に理解していただけるよう努めている	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各職員が利用者の意見を尊重し、出された意見については、ミーティングで共有し運営に反映している。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホーム便りを随時発行し、家族の来訪時には必ず写真や制作品を渡し、生活状況を報告している。また、ケース記録などの閲覧を行い、必要時にはケアプランに目を通していただき、印鑑をもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	積極的に情報の提供・開示を行っている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	手紙や電話、来訪時にえっさよくてきに問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意してる。出された意見は、ミーティングで共有し、運営に反映している。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	随時、時間をとり意見交換を行い運営に反映している。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の身体状態に配慮したシフトを確保している。また、緊急時に対応できる、臨時職員(准看護師)を確保している。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。			
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各職員の技能に応じて、研修参加や関連資格取得のための機会を積極的に設け、段階的に技能のレベルアップが図れるように計画的に取り組んでいる。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	資質のベストバランスを考慮した職員配置を行っている。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	2ヶ月に1回開催される「地域連絡会議」(動地域内の同業者が集結)に参加し、情報交換、ケース検討、問題提議等を通して交流を図り、同業者間のネットワーク強化・サービス向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		常に、研修や交流の機会を作り、向上心を養うよう努めている。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		高い専門性やリスクを要求される職員については、報酬にて評価している。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		本人とのコミュニケーションの徹底を図ると同時に、家族とも密接にコミュニケーションを図り、本人の性格や傾向などを十分に把握するようにしている。表情や態度等をしっかり観察し、些細なことであっても、納得するまで本人の訴えをじっくりと聞いてあげるようにしている。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		来訪時や電話連絡、または自宅訪問時等、疑問点や要望をこまめに尋ね、それら一つ一つに対して具体的な対応内容を納得いくまで説明し、安心してもらえるようにしている。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		入所に至る前段階の選択肢の一つとして、共用型デイサービスについても説明している。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		体験利用の受け入れを行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		すべての生活において、利用者の意見を取り入れている。 (例：買い物、献立、盛りつけ、食事の後片付け等)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族・職員で話し合い、アセスメントを実施し介護計画に反映している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化に応じて、随時アセスメントとミーティングを実施し、計画の見直しを行っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に日々の記録をとり、情報を共有し、常に見直しに努めている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの受け入れや、消防署立会の訓練等、地域と協力しながら支援している。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域の方々が来訪されたときは、その都度、見学や面会等の受け入れを行っている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>本人の不利益になるような個人情報には触れないように配慮しつつ、ミーティングや朝礼などの機会を通して、注意・指摘し、意義の向上を図っている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>常に声かけを行い、希望や要望を聞き、対応できるよう支援している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>できる部分を見極め、その力を活かした支援を行っている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個別ケアの実践として、本人が活躍できる場面をつくり、意向を尊重した支援を行っている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の意思表示により、希望に沿った支援を行っている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事を楽しい物にするため、個々の好みを取り入れ、準備し、利用者と職員が一緒に物を一緒に食べるようにしている。(検食の活用)</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>6ヶ月に1度、嗜好調査を行って、日々の生活に活かしている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を作成し、パターンを確認し、見守り・声かけを実行することでオムツの使用を減らし、可能な限りトイレで排泄できるよう工夫している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花を生けたり、プランターを置いたりして季節感を出す工夫をしている。また、近隣の方々に気軽に立ち寄ってもらえるよう、声をかけたりしている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	安心感や生活感を感じられるような自然な音や光などの刺激を取り入れる工夫をしている。また、フロアの飾り付けや家具の配置は利用者の意見を取り入れることで、居心地の良い空間作りを心がけている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中で、居心地の良い場所を見つけ、くつろげるような工夫(ソファの位置・和室の利用など)をしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の行動特性や、家族の意向を考慮しながらではあるが、基本的には本人の意思を尊重し、持ち物や持ち込みは制限しない。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な換気と、利用者の動き等を考慮した空調管理を行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	利用者一人一人の身体機能を考慮した生活環境を整え、自立した生活ができるよう支援してる。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	「何ができるのか？」を理解・把握し、可能なことに取り組んでもらうことで、不安を解消し自信を持って生活できるような環境作りを行う。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周りで、水やり・洗濯物・日向ぼっこ等、活動できるような環境を作っている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない